

1 まちづくり政策（教育部関係分）

政策
6

子育て・教育

政策展開の方向性

安心して子どもを産み育てられるよう、子どもが健やかに育つ環境づくりと、仕事と子育てを両立できる子育て世代にやさしいまちを目指します。
また、子どもの権利を尊重しながら、地域全体で子育てを温かく見守るまちづくりを進めます。
教育では、学校などでの様々な学びが、子どもたちの「生きる力」となり、今後、社会が変化し先行きが見通せない時代となっても、自分で課題を見つけ、学び、考え、判断、行動して、それぞれが思い描く夢を実現していく資質や能力が身に付くよう、地域とも連携して子どもたちを育みます。

令和7年度 of 取組状況報告

6－（2） 子どもの教育の充実

- ・小中一貫教育では、各中学校区で、中学校卒業時における「目指す子ども像」を学校・家庭・地域で共有しながら、学習規律や生活規律を揃えた一貫した指導や重点的な課題等を踏まえた系統的な指導、小学生による中学校への体験登校や中学校の先生が小学生に教える乗り入れ授業などの相乗的・補完的な指導に精力的に取り組む、児童生徒の自己肯定感の高揚や中学校進学という環境の変化で生じ得る「中1ギャップ」の解消に努めました。
- ・国が掲げる「GIGAスクール構想」に基づいて整備したタブレット端末の更新を進め、授業支援アプリや協働学習アプリを導入するなど、児童生徒の情報活用能力の系統的な育成を図るとともに、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りました。また、校務支援システムと連動した保護者連絡ツールや校務への生成AIの導入により、教職員の業務の効率化を図り、子どもたちと向き合う時間の確保に努めました。
- ・地域とともにある学校づくりに向け、学校のニーズに基づき地域ボランティアや学生ボランティアを多数派遣したほか、学校・家庭・地域が相互に連携・協力しながら子どもを育てる持続可能な仕組みづくりのため、引き続き、えべつ型コミュニティ・スクール事業を進め、家庭や地域の積極的な教育活動への参画促進に取り組みました。
- ・児童生徒が授業の内容を理解し、確かな学力を身に付けられるよう、全小中学校に学習サポート教員を派遣し、チームティーチングや放課後学習に積極的に取り組んだほか、外国語指導助手を派遣しネイティブの英語に慣れ親しむなど、異文化を理解し尊重する態度やコミュニケーション能力を伸ばす教育に取り組みました。
- ・市内大学と連携し、体を動かすことの楽しさを感じながら体力向上を図る「出前授業」や、正しい走り方を身に付けるための「走り方教室」を実施し、子どもたちの体力向上に取り組みました。
- ・中学校の部活動について、学識経験者等による在り方検討委員会からの提言を踏まえ、今後の当市における部活動地域展開の推進に当たっての基本方針を策定したほか、スポーツ庁の委託事業である「地域連携実証事業」の実施や部活動指導員の配置を増やすなど、地域と連携した部活動の推進に取り組みました。
- ・学校における読書活動の充実を図るため、学校図書館の蔵書率向上に努めるとともに、情報図書館と連携し、司書の巡回配置と学校要望に応じた随時支援により読書環境整備や朝読書などに取り組みました。
- ・特別な支援や配慮を必要とする児童生徒に対する適切な教育を行うため、特別支援教育支援員の配置拡充、施設整備、備品の配備、専門家チームの巡回相談による助言を行ったほか、特別支援教育に関する教員及び支援員の資質向上を図る研修を実施しました。
- ・様々な不安や悩みを抱える児童生徒を支援するため、スクールソーシャルワーカーが、学校・福祉・医療などと連携して課題の改善に取り組みました。
- ・いじめの未然防止・早期発見・早期対応のため、児童生徒にいじめを許さない意識を醸成させるとともに、いじめアンケート調査等により学校が認知したいじめに対して組織的な対応に努めました。
- ・不登校又は不登校傾向にある児童生徒の教育機会及び居場所の確保を図るため、教育支援センター「ねくす」との支援のほか、各学校が設置する校内登校支援室へのボランティアの派遣など支援の充実を図りました。
- ・物価高騰により学校給食の原材料費が上昇している中、原材料を購入している江別市学校給食会に対して補助金を交付することにより、保護者負担を増やすことなく、栄養バランスや量を保った給食を提供しました。
- ・施設の老朽化などの課題に対応するため、小中学校代表者・PTA代表者・市民公募委員・学識経験者で構成する「江別市学校給食の在り方検討委員会」からの提言書を受けて、市において議論を深め、パブリックコメント、住民説明会を経て、「江別市学校給食の在り方基本構想」を策定しました。
- ・学校施設の暑さ対策推進のため、小学校8校の普通教室等にエアコンを設置するとともに、他の小学校9校においても設置に向けた実施設計を行いました。このほか、安全で安心な教育環境確保のため、「江別市学校施設長寿命化計画」に基づき、学校施設・設備の改修、更新等を計画的に進めました。

政策の成果指標	単位	(初期値)	R6年度	R7年度	R8年度	目標
江別市は、教育施策に力を入れているまちだと思ふ市民割合	%	43.0	36.9	44.0		↑
自己肯定感が高い児童生徒の割合	%	77.5	84.3	84.3		↑

教育部が所管する個別計画または重点事業の進捗状況						
「学校教育基本計画」 授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいた児童生徒の割合	%	78.6	83.2	78.7		↑
「学校教育基本計画」 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合	%	88.6	87.0	87.3		↑

政策 7 生涯学習・文化・スポーツ	政策展開の方向性	
	全ての市民が、いつでも、どこでも学習活動、文化・芸術活動や、スポーツ活動を気軽に行える環境を提供し、いつまでも心身ともに健やかで充実した生活が未来へ続くようにします。 また、江別市の貴重な地域資源である、やきもの文化や歴史遺産を通じて、ふるさと愛の醸成を図ります。	
	令和7年度取組状況報告	
	7-(1) 生涯学習の充実	
	・公民館や情報図書館をはじめとする社会教育施設について、生涯学習に取り組む市民や活動団体等に、安全で快適な学習環境を提供するため、「江別市公民館等長寿命化計画」、「江別市情報図書館長寿命化計画」などを踏まえた適切な維持修繕等を行ったほか、情報図書館及び市民文化ホールでは照明機器のLED化工事などを行いました。 ・生涯学習活動に取り組む社会教育関係団体が自立し、主体的に活動を展開していけるよう、各活動団体が行う事業への補助や、公民館施設等使用料の減免など、活動団体の安定的な運営への支援を行いました。また、市広報紙やホームページ、SNSなどにより、様々な学習機会の情報提供を行いました。 ・市民の多様な学習要求に応えるため、市内関係機関・団体と連携して「えべつ市民カレッジ」を実施し、総合的に学ぶ機会を提供しました。 ・青少年の健全育成に取り組む地域の住民団体やボランティア団体をはじめとした育成団体の活動を支援するとともに、これらの団体と協働して、小中学生を対象とし、地域の自然、文化、産業等の資源を生かした、江別の魅力である「食」と「自然」を満喫できる体験型学習を実施したほか、様々な体験活動の機会を提供しました。	
	7-(2) ふるさと愛の醸成と地域文化の継承	
	・質の高い文化・芸術を鑑賞する機会や幅広い活動の場を提供するため、音楽・演劇公演の開催や文化活動団体の事業に対し支援を行いました。 ・「旧町村農場」では、酪農の歴史や文化を発信することを目的として、市民を対象としたセミナーや各種展示等を行いました。 ・「北海道林木育種場旧庁舎」の歴史的価値の周知と地域の交流促進を目的として、市民を対象とした歴史セミナーや、市内大学及び施設利活用事業者との共同によるワークショップを実施しました。 ・郷土資料館では、ふるさとへの理解を深める機会を提供するため、市民から寄贈いただいた資料を活用した企画展や各種歴史講座の開催、小学校の総合学習への支援等、郷土史学習に関する事業を実施しました。 ・文化財の適切な管理と安全・安心な郷土史学習の環境を提供するため、郷土資料館の屋上防水工事等を実施しました。 ・セラミックアートセンターでは、「手島圭三郎絵本原画展」並びに「尾形香三夫追悼展」を開催し、郷土が誇る芸術文化の普及に努めたとともに、幅広い世代に対応した各種陶芸教室等を開講しました。 ・日本遺産「炭鉄港」の構成文化財である炭鉱鉄道遺産群を紹介するロビー展を開催しました。	
	7-(3) 市民スポーツ活動の充実	
	・体育施設管理団体と連携し、体育館をはじめとするスポーツ施設の適切な施設運営に努めたほか、「江別市スポーツ施設長寿命化計画」に基づき、大麻体育館第2、第3体育室の床改修を実施するなど、各施設の適切な維持・改修整備を行いました。 ・利用者アンケートなどを通じて市民ニーズを正確に把握し、各種スポーツ教室の指導方法の工夫に努めました。 ・幅広い年齢層に対応した活動機会の提供、及び地域や関係団体との連携によるスポーツ活動団体活性化のため、活動団体への補助や軽スポーツ普及への支援を行いました。 ・トップアスリートとの交流を通じてスポーツへの関心を高め、市民スポーツ活動の振興を図るため、北海道コンサドーレ札幌08会によるサッカー教室を開催しました。また、障がい者スポーツの支援として、北海道特別支援学校フットサル大会の開催・運営協力を行いました。	

政策の成果指標	単位	(初期値)	R6年度	R7年度	R8年度	目標
文化・芸術活動に参加している市民割合	%	26.6	26.8	24.3		↑
週1回以上スポーツ活動に親しむ市民割合	%	44.2	45.0	47.6		↑
教育部が所管する個別計画または重点事業の進捗状況						
「社会教育総合計画」 生涯学習の機会が充実していると思う市民割合	%	62.2	67.5	74.1		↑
「社会教育総合計画」 文化財や歴史遺産の活用により、個性豊かな文化が育っていると思う市民割合	%	35.3	36.0	35.2		↑
「スポーツ推進計画」 スポーツ機会が充足していると思う市民割合	%	63.8	69.0	75.8		↑

政策
8
協働・共生

政策展開の方向性						
江別市自治基本条例で掲げる市民自治の理念に基づき、市政への市民参加を進めるとともに、市民、自治会、NPO、ボランティア・市民活動団体、企業、大学などの各種団体と連携し、魅力ある協働のまちづくりに取り組み、多様な主体がありのまに暮らせる共生のまちを目指します。 また、グローバルな視点に立ち、人材・団体の育成を行うほか、国際交流を推進するとともに、在住外国人にとっても住み良いまちを目指します。						
令和7年度の取組状況報告						
8－（１） 協働のまちづくりの推進						
・小中学生が、友好都市である高知県土佐市の歴史・文化・産業を学び、実際に土佐市を訪れて異なる生活や風土を肌で感じることで、自分が住んでいる地域を見つめ直し、地元への理解を深めることで江別市への郷土愛を育むことにつながる、小中学生相互交流事業を行いました。						
8－（３） 国際交流の推進						
・国際交流を担う団体や、活動拠点となる江別国際センターの維持・管理を補助し、国際交流に関わるイベントや外国語教室などの実施を支援しました。 ・子どもたちの国際理解を深め、国際交流の意識向上を目的とし、姉妹都市米国グresham市との中高生相互交流事業を実施するとともに、地域の国際化や国際交流の推進に大きな役割を担っている江別国際センターが主催する様々な交流イベントでは、多くの在住外国人の参加により、市民が多文化に触れることができ、国際理解が深まる機会となりました。 ・江別国際センターと連携・協力した日本語教室の開催のほか、国際交流員により在住外国人へ生活に必要な情報の提供を行いました。						
政策の成果指標	単位	（初期値）	R6年度	R7年度	R8年度	目標
協働によるまちづくりが進んでいると思う市民割合	%	27.2	34.0	36.1		↑
お互いの文化や価値観を理解し、外国人と交流できる市民割合	%	60.7	59.2	59.4		↑
教育部が所管する個別計画または重点事業の進捗状況						
「国際交流情報提供事業」 国際交流員が関わった地域国際化のための講座・イベント等の参加者数	人	846	1,349	1,424		↑

2 えべつ未来戦略（教育部関係分）

戦 略	■ 具体的施策 「関連事業」 （担当課）
【戦略1】 子どもが主役のまちをつくる	④ 教育内容の充実 「小中一貫教育推進事業」（学校教育課） 「小中学校学習サポート事業」（学校教育課） 「小中学校外国語教育支援事業」（学校教育課） ⑤ 教育相談・支援の充実 「スクールソーシャルワーカー事業」（教育支援課） 「いじめ防止対策事業」（教育支援課） 「不登校児童生徒支援事業」（教育支援課）
【戦略2】 幸せに歳を重ねられる暮らしをとどける	
【戦略3】 みんなの働きがいと、元気な経済をつくる	
【戦略4】 地域から地球温暖化防止に挑む	
【戦略5】 デジタル技術で住みよい明日を切りひらく	

3 教育部の資源

		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
歳出決算額 （千円）	一般会計 (A)	3,344,243	5,263,256			
	特別会計 (B)	0	0			
	合計 (A+B)	3,344,243	5,263,256	0	0	0
正職員人件費 （千円）	人工 (a)	90.00	89.00			
	平均単価 (b)	7,695	8,310			
	人件費 (a×b)	692,550	739,590	0	0	0
総 額		4,036,793	6,002,846	0	0	0